

「気になる子ども」の保育方法についての一考察

— 事例からみる新任保育者の困り感と変容過程 —

小川 圭子

I はじめに

最近、「気になる子ども」が増え、特に新任保育者が悩みを抱えていることを聞かされることが多くなった。

日高・橋本・秋山(2008)によると、「気になる子ども」とは「発達障害児を含めた、保育現場で保育者が気がかりになる子」と言われている。つまり、保育の中で対応に困る存在で、特別に配慮する必要がある子どもである。場合によっては発達にかなりの偏りがみられる子どものことである(野田・深田,2002;本郷・澤江・鈴木・小泉・飯島,2003など)。また、8割前後の幼稚園や保育所に「気になる子ども」が存在していることも報告されている(平澤・藤原・山根,2005;丸山,2008)。

水野・徳田(2008)の新任保育者の職場適応の調査によると、保育者になったことを肯定的に受け止めている新任保育者で、半数以上のものが辞めたいと感じていることを明らかにしている。その理由として、「職場の人間関係」「保護者との人間関係」「子どもとの人間関係」が挙げられている。特に、子どもとの人間関係における悩みでは、「問題のある子どもへの対応がわからない」が34%と高い数値を示していた。

一人ひとりの子どもを大切にしようとしている新任保育者は、「気になる子ども」への特別な配慮を要する、行動面、生活面、社会面、情緒面への悩みが大きい。例えば、集団行動がと

れない子ども、集中力に欠ける子ども、落ち着きのない子ども、すぐに保育室ををび出してしまふ子ども、排泄が自分でできない子ども、自分の気持ちを言葉で表現する力が弱い子ども等への対応に苦慮している現状がある。しかし、新任保育者への「気になる子ども」の支援プログラムはまだ、つくられていない(丸山,2008)。

本研究では3名の新任保育者に継続的にヒヤリングを行い、「気になる子ども」への対応について新任保育者が保育でどのようなことに困り感をもっているか、どのような過程を経て「気になる子ども」を受け入れることができ、変容したかについての視点と課題を明らかにした。それらの課題をふまえて、「気になる子ども」の保育方法のあり方への示唆を検討する。

II 研究の方法

1. 対象保育者

対象保育者は、兵庫県内に勤務する就職1年目で、気になる子どもを担任している幼稚園教諭2名(公立1名、私立1名)、保育所保育士1名(私立)、計3名であった。

対象保育者の概要をTable 1に示した。

2. 実施期間

平成20年10月～平成21年3月の約6ヶ月間にヒヤリングを行った。

3. 手順

各回、約1時間程度のヒヤリングの時間を設けた。ヒヤリング内容は、気になる子ど

「気になる子ども」の保育方法についての一考察

Table1 対象保育者の概要

| | | 事例A | 事例B | 事例C |
|---------|------------------|--------------|------------------|--------|
| 対象保育者 | 性別 | 女性 | 女性 | 女性 |
| | 年齢 | 20代 | 20代 | 20代 |
| 気になる子ども | 性別 | 女兒 | 男児 | 男児 |
| | 年齢 | 4歳5ヶ月 | 4歳5ヶ月 | 2歳5ヶ月 |
| 対象園 | 種別 | 公立幼稚園 | 私立幼稚園 | 私立保育所 |
| | クラスの学年 | 4歳児クラス | 4歳児クラス | 2歳児クラス |
| | クラスの規模 | 20名 | 28名 | 9名 |
| | クラスの職員数 | 2名 | 1名 | 3名 |
| | クラスの気になる子の数 | 3名 | 4名 | 2名 |
| 面接期間 | 2008年10月～2009年2月 | 2008年10月～12月 | 2008年10月～2009年3月 | |
| 面談回数 | 5回 | 4回 | 7回 | |

もに関する新任保育者の困り感，新任保育者を支えるまわりの環境についてであった。

III 結果と考察

1. 保育者の困り感

面接から得た新任保育者の困り感をTable2に示した。Table2より，新任保育者の面接から，新任保育者の困り感は「言葉」，「生活習慣」，「友達関係」，「親との関係」であることが確認できた。本郷ら（2003），平澤ら（2005），池田・郷間・川崎・山崎・武藤・尾川・永井・牛尾（2007）の質問紙調査においても同様の結果を得ている。

特に新任保育者にとって親との関係の悩みが3事例から共通して抽出された。気になる子どもとの関係だけでなく，親との関係においても困り感を感じていることがわかった。水野ら（2008）の調査においても43%の新任保育者が悩むと報告されている。

次に新任保育者の困り感について3名の保育者から抽出された「言葉」，「生活習慣」，「友達

関係」，「親との関係」についての事例を挙げる。

「言葉」では，保育者の話しの内容を理解できないことが多かった。例えば，今から折り紙でコップを作る。作り方の説明を保育者が行うが，作り方については，説明を聞いていたが，作成するとなるとまったく理解できていない。クラス全体でいうと理解できないので，個別に対応するとなんとか理解できる。他には，言葉の語彙が少なく「うん」と「かして」の言葉しか話さないことも挙げられていた。

「生活習慣」では，降園時に体操服の着替えをするが30分も時間がかかる。1対1ではできるが，他の園児よりも時間がかかり，そばについていないと着替えない。大便の処理ができなくて，パンツ中で漏らすことが一日に何回もある。給食の時間になると，「いただきます」をする前に食べ始めてしまう。そして，隣の友達のお弁当にも手をだして，つまんで食べてしまう等，クラスみんながそろそろまで待てない。

「友達関係」では，上靴をぬいでいるそばに友達がいると「靴を取られる」「いじめられた」

と感じて、友達のをたたいたりする。これはいいこと、わるいことの状態判断の理解が苦手である。また、積み木で遊んでいて、友達からお片づけを促されると、言った友達をたたいたり、「あっちへいけ」と大きな声で怒鳴ったりする。ゲームをしていて負けたときに、部屋の隅に行き大きな声で泣き叫んだりしてしまう。

「親との関係」では、新任保育者は親に子どもの気になる事について話そうとするが、親自身が仕事や生活に余裕がなかったりして、「気になる子ども」の問題について、親自身がそのことを受容できていなかったりする。

2. 新任保育者の変容過程

どのような時に何をきっかけとして新任保育者が変容していくのかを面接記録から明らかにした。その結果、自分自身のかかわりの変容は「子どもとの関係」「親との関係」「園長・職員との関係」「研修」「専門家の助言」「その他」であった。「気になる子ども」へのかかわりから変容のきっかけになった項目と具体的な内容をTable3に挙げた。

3. 事例からみる変容過程

(1) 子どもとの関係

テンションが上がるとA児は嘔むくせがあるので、新任保育者はA児が遊びに「はいる」ことより、A児を「見張る」気持ちのほうが先であった。友達と遊びを共有できていることに気づいたとき、A児の遊びを楽しんでいる姿が多くみられるようになった。新任保育者はその時の気持ちを振りかかえると、これまでは危険なことをするのでも「ちゃんと見んとあかん気持ち」「どこかに行ってしまうのではないか」という監視の気持ちでA児をみていた。しかし、A児が友達を嘔む回数がへってきたことについて、また、A児が楽しそうに遊んでいる姿から、新任保育者はこれまでの「監視」の気持ちから

「見守る」という気持ちに変容していることに気づいた。

(2) 親との関係

新任保育者自身が親の気持ちを受容できるようになったのは「生活発表会」が近づいた頃である。新任保育者がどのようなかわりをしていくか、またどのような見通しをもっているかについて、親と話し合う機会を得た。その後、親が子どものことについて尋ねるようになったことから、親との人間関係の問題が軽減した。つまり、親との回を重ねる話し合いから、親の「どうかかわってよいかかわからない」と声を詰まらせながら話した気持ちにふれることができ、親に対して援助的視点でかかわっていくことの必要性を知ることができた。つまり、新任保育者と親との関係は相互参画であると言える。

(3) 園長・職員との関係

園長が「気になる子ども」を担任することの大変さを理解していた。園長から、落ち着いた環境設定であるから、気になる子どもが外に飛び出してしまうので、気になる子どもの居場所づくりについて指導され、気になる子どもの保育室の動線に配慮した環境づくりをした。すると、気になる子どもは、しんどくなると自分の居場所にいき、ゴロゴロ寝転がっていた。気分が落ち着くと再び活動をする。奇声を発し、保育室から急に飛び出すことはなく、落ち着いて遊びの活動をすることができた。

他には、ままごととブロックの遊ぶ場所やシールはり、お絵かきをする場所やいすに座る場所に配慮した。それまで騒然とした活動であったが、B児が集中して活動するようになった。また、園長先生から、楽しさが一番やと言われてから、楽しくやろうと思うようになった。

このように、園長が気になる子どもの保育の大変やその子どもが落ち着く方法を保育者に指

「気になる子ども」の保育方法についての一考察

導することができていたことから、保育者自身がやってみようという気持ちももてるようになり、気になる子どもにも変化が生じた。

園長・主任からアドバイスをもらい解決していく対応が多く、そのことが新任保育者の変容につながっていることがわかった。日高ら(2008)の調査でも同様のことが確認されており、6割以上の保育者が園長・主任からのアドバイスによって困り感が軽減されることが明らかになっている。

(4) 研修—生活チェックリストの利用—

研修での指導から生活チェックリストを利用した。生活チェックリストに、遊び、食事、着脱など気になる子どもの項目を挙げ、次に「身につけさせたいこと・改善したいこと」についての「具体的な支援の内容」を表にして、気にならな子どものこの生活を新任保育者が理解できるように整理して記録する方法である。

生活チェックリストをつけるようになって、「気になる子ども」をよく意識するようになった。これまでは、気になる子どもの目線に合わせた保育をしてきたつもりであったが、一瞬目が合っただけでは、子どもを理解したことにはならない。保育者があーしてみよう、こうしてみようと、考え、いろんな方法でちょっと意識をかけるだけで、気になる子どもが変容していくことを教えられた。そして、このことに気づいている新任保育者も変容していることを学べた。

(5) 専門家の助言

加配保育者がいたことが困り感を軽減することにつながった。そして、園内研修制度が整い、専門家の相談システムがあるなど、園全体での支援体制が整っていた。また、困ったときにすぐに聞ける良好な職員関係があり、困り感もすくなかった。

専門家の助言による変容から、「無理に子どもを保育室に連れ戻そうとしなくてよい」といわれたことで肩の荷がおりたと、専門家の助言を受けることは保育者の心の負担を軽くする。専門家が新任保育者の困り感をくみ取り、話を十分に聞き、具体的な対応・支援を提示することで、新任保育者の困り感は少なくなり、保育者の変容につながると考えられる。

このように専門家の指導を得ながら知見を保育に生かしていくことができる。

(6) 事例ABCから分かったこと

新任保育者は孤軍奮闘している。そこに、専門家や園長・職員のそして研修での知見を入れることで、保育に生かすことができ、そのことで、保育者が気になる子どものかかわりで気づくことが多くなり、変容していった。そのことで、新任保育者が子どもをみる枠組みが変わり、変容していく機会となった。気になる子どもの変容から新任保育者も変容している。気になる子どもと新任保育者の変容は相互的なものである事が言える。

IV まとめと今後の課題

気になる子どもの保育は、親との話し合いの割合が低いことや、専門的な支援を受けていないことが先行研究でも明らかにされている(平澤ら,2005)が、本研究では、保護者との話し合いや専門家からの指導によって新任保育者は気づき、変容していった。手がかりとなる技術を新任保育者が知っていれば、保育活動が豊かになり、保育の質の向上にもつながると考えられる。

丸山(2008)は、就学前のさまざまな行動を見せる子どもに即した、発達障害児に対する指導方法についての具体的な手立てを書いた、子どもへの対応マニュアルはない。子どもの抱え

ている課題によって対応はさまざまである。子どもに寄りそうことであるが、実際に子どもに寄りそうとはどのようなことなのであろうか。

気になる子どもとの出会いは、新任保育者の子どもへの関わり方を自問し、新任保育者自信の成長を高め、保育の質を高めていくこととなる。

新任保育者の気になる子どもへの今後の課題は、親が幼稚園でどのような支援を受けていたか。また、親が幼稚園や園の先生方に望んでいる支援の内容から、新任保育者が専門的なかわり方の理論や技術を学び援助できる対応マニュアルを作成していきたい。

Table2 新任保育者の困り感

| 事例A | 事例B | 事例C |
|--------------------|--------------------|------------------|
| 「うん」「かして」の言葉しか出ない。 | すぐにどこかに行く。 | 言葉の発達が遅い。 |
| 保育場面の切り替えができない。 | 物をよく忘れる。 | 同じ言葉の繰り返し。 |
| 親が子どもに関心をもたない。 | 偏食で白飯しか食べない。 | 友達と遊べない。 |
| 保育者の話が理解できない。 | 友達を叩く。 | 友達をかむ。 |
| | 着替えができない。 | 親が子どもに関心をもたない。 |
| | 親が子どもに関心をもたない。 | 偏食。 |
| | | 保育室からとび出す。 |
| ↓ | ↓ | ↓ |
| 言葉 生活習慣 親との関係 | 生活習慣 友達関係 親との関係 | 言葉、友達関係 親との関係 |

Table3 新任保育者の変容過程

| | 事例A | 事例B | 事例C |
|------------------|---|---|--|
| ① 子どもと の関係 | <ul style="list-style-type: none"> ・「これとこれ」と子どもにポイントを伝える。 ・健常児とのかかわりを多く持たせるようにする。 ・視線をあわせてかかわるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育室の動線に配慮する。 ・「気になる子ども」の好きな遊びを保育者もする。 ・子どもの居場所をつくる。 ・保育者のそばに来たときは抱きしめる。 ・根気強くかかわり、この子の気持ちを受け止める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「見張る」から「見守る」気持ちに変わる。 ・こだわることには、気の済むまでやらせてみる。 ・一日のスケジュールを変えないようにする。 ・言葉を添えて物を手渡す。 |
| ② 親との関 係 | <ul style="list-style-type: none"> ・親が子どもについて、保育者に尋ねることが多くなり、家庭と幼稚園が同じ方向性で考えていくことができるようになった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・親との話し合いで子どものよさに気づくようになった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・母親から困っていることを尋ねられたとき、母親の気持ちにふれることができた。 |

「気になる子ども」の保育方法についての一考察

| | | | |
|--------------------|---|--|---|
| ③ 園長・職員との関係 | <ul style="list-style-type: none"> ・他の職員に子どもの様子をみてもらい、アドバイスをうける。 ・休憩時間の雑談の中での話し。 ・6回の特別支援教育園内研修。 | <ul style="list-style-type: none"> ・園長が「気になる子ども」を担当することの大変さを理解してくれている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・担当保育者3名で話し合う。 |
| ④ 研修に参加した回数とテーマ | <ul style="list-style-type: none"> 1回 ・幼稚園における特別支援教育（新任研修）。 | <ul style="list-style-type: none"> 2回 ・気になる子どもとのかかりについて。 | <ul style="list-style-type: none"> 3回 ・気になる子どもの理解と対応。 ・ソーシャルストーリーの手法 |
| ⑤ 専門家の助言 | <ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導の先生に「無理に子どもを保育室に連れ戻そうとしなくてよい」といわれたので、肩の荷がおりた。 | | |
| ⑥ その他 | | <ul style="list-style-type: none"> ・母校で気になる子どもについて、学生に話す機会があり、自分の保育を振り返ることができた。 | |

参考文献

日高希美・橋本創一・秋山千枝子（2008）：保育所・幼稚園の巡回相談における「気になる子どものチェックリスト」の開発と適用.東京学芸大学紀要,総合教育科学系,59,503-512.

平澤紀子・藤原義博・山根正夫（2005）：保育所・園における「気になる・困っている行動」を示す子どもに関する調査研究—障害郡からみた該当児の実態と保育者の対応および受けている支援から— .発達障害研究,26,256-266.

本郷一夫・澤江幸則・鈴木智子・小泉嘉子・飯島典子（2003）：保育所における「気になる」行動特徴と保育者の対応に関する調査研究.発達障害研究, 26,256-266.

池田友美・郷間英世・川崎友絵・山崎千裕・武藤葉子・尾川瑞季・永井利三郎・牛尾禮子（2007）：保育所園における「気になる子どもの特徴と保育上の問題点に関する調査研究」.小児保健研究, 66（6）,815-820.

丸山美和子・編（2008）：保育現場に生かす「気になる子ども」の保育・保護者支援—かもがわ出版.

水野智美・徳田克己（2008）：就職後3ヵ月の時点における新任保育者の職場適応.近畿大学臨床心理センター紀要, 1,75-84.

野田淳子・深田昭三（2002）：保育者のフィールドにおける発達支援—対応の難しい子どもと保育者の変容をうながしたもの—.乳幼児教育学研究,11, 33-42.

小川圭子（2009）：「気になる子ども」への新任保育者の変容過程に関する研究.アジア子ども支援学会第1回研究大会論集.

寺見陽子・西垣吉之編著（2008）乳幼児保育の理論と実践,ミネルヴァ書房.

謝辞

本研究を進めるにあたり、新任保育者3名の方のお世話になりました。ここに深く感謝の意を表します。